

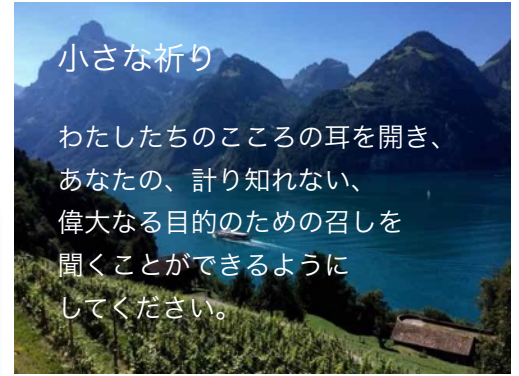


JEG ニュースレター 152号

www.jegschweiz.com

2015年9月18日発行

小さな証 ウスター最後の礼拝 新会堂で初めての礼拝 プラハ大会、証と感想
 一年間の洗礼準備の スイスJEGの創立から プラハで開催された
 学びの中でイエス様 22年、礼拝を守って 第32回ヨーロッパ・キ
 に全幅の信頼を置く きたウスター・クリ ショーナ教会での最
 ことの出来た若き2 ショーナ教会での最 者の証しと感想を編纂
 人の証。 P2 後の礼拝。 P3 した。 P3 (添付)

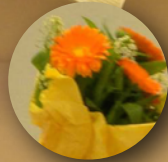


小さな祈り

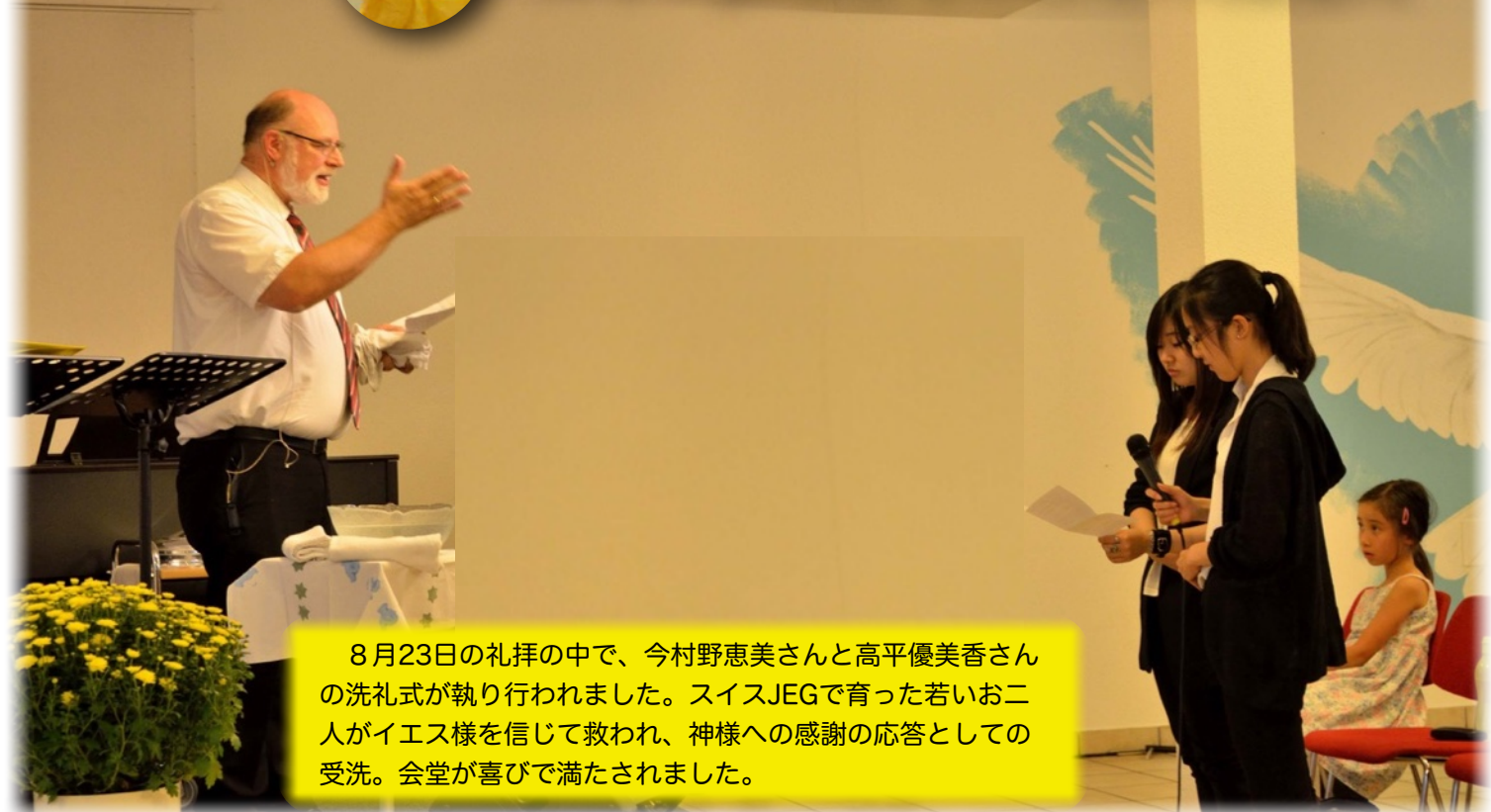
わたしたちのこころの耳を開き、
 あなたの、計り知れない、
 偉大なる目的のための召しを
 聞くことができるように
 してください。

わたしはあなたに命じたのではない。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主が、あなたのいく所どこにでも、あなたとともにあるからである。

ヨシュア記1：9



スイスJEG育ちの若者の洗礼式



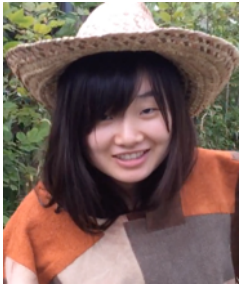
8月23日の礼拝の中で、今村野恵美さんと高平優美香さんの洗礼式が執り行われました。スイスJEGで育った若いお二人がイエス様を信じて救われ、神様への感謝の応答としての受洗。会堂が喜びで満たされました。

ちいさな証

イエス様との出会い

今村野恵美/高平優美香

スイス日本語福音キリスト教会



今村野恵美です。これから、短く証しをさせていただきたいと思います。だいたい1年間の洗礼準備の学びを終えて、今日は、神様の前と教会の皆様の前で洗礼を受けたいと思います。証しとして、四つの点についてお話したいと思います。

イエス様との出会いについて

JEGの教会ではイエス様の事は良く分かっていませんでした。しかし、SLIM Conference でイエス様に会いました。ここからは、あんまりリアルに説明したくないので、イメージとして伝えます。私はイエス様から背を向けて違う方向に歩いてました。気がついたら深い谷底のような穴に落ちていました。すると蜘蛛の糸のような物が目の前にありました。その蜘蛛の糸の先を目で追うと光が見えました、そういう感じがしました。その光は私の希望です。それがイエス様です。

祈りについて

私にとって祈りとは、言葉を通しての祈りだけではなく、もう私の心は神様に直結しています。私が言葉にして祈る前に、言いたい内容はすでに神様に伝わっています。まるで、インターネットのWi-Fi接続のようです。でも、人と一緒に祈る時は、もちろん言葉が必要です。

教会について

私は生まれた時から教会に連れて行かれました。私はいつも母に、何で教会に通わないといけなかつたのかと、いつも聞いていました。その時、教会にはあんまり行きたくなかつたと思います。でも今は違います。SLIMに行って、やっとクリスチャン同士が集まる素晴らしさがわかりました。それは、共に笑い、共に泣き、互いに支え合い、共に助け合うということです。皆んなが支えてくれるから、自分も支えたいと思える、迷惑をかけても背中を押してくれるから、私は頑張れる。そういう教会が私は大好きです。

聖書について

人生の中で正しく歩める道が書かれてあります。教えてもらって読みます。また、聖書を通して、イエス様をよりよく知ることができますから、これからはますます読んで、勉強したいと思えます。



みなさんこんにちは高平優美香です。これから私の証を読みしたいと思います。

『お祈り』について

私はいつもお祈りをしないとごはんが食べられないと思ってました。あと、小さい頃からやっていたので習慣だと思ってて神様にごはんをありがとうとか、ちゃんと幼稚園に行けますようにとか言う

うだけかと思ってました。だからたまにお祈りを何でしないといけないのかな？と思ってました。お祈りをちゃんとしないといけないと思ったのは中学の頃。自分がこれから何をして行くのかを考えるようになってから。今だとお祈りは毎日ちゃんと思ってしてます。ちゃんと感謝して。いつもそばに居てくれてありがとう。って。

『教会』について

私が物心ついてから行った教会では、お母さんたちが礼拝をして子供たちは遊ぶ。だと思ってました。でもUsterの教会に行くようになってからCSに行くようになりました。そこで初めての『学び』をやりました。それから毎回参加するようになって今ではTeensに行くようになりました。Teensではもっといろんなとこを詳しく話し合ったりしてとても面白いです！いろんな意味で！この教会に来てマイヤー先生に出会ってマイヤー先生との学びに参加してなかったら、いつまでも中途半端のままでした。

『イエス様』について

今思うと私がスイスの幼稚園に入ったころ、毎日毎日泣いてました。突然知らない言葉で知らない人に話しかけられてたり、一人ぼっちで知ってる人もいなかったし。でもイエス様がそばに居てくれたから頑張れたのかな？って思います。幼稚園ではいい先生に出会えたり、仲良しのお友達が出来たり、ドイツ語も少しずつ話せるようになりました！

そのあとは幼稚園のお友達と一緒に学校に行けたり、いい人に出会えたり、自分に合った仕事も見つかりました！私は一番子ですべてが初めてで挑戦ばかりでした。でもイエス様がそばに居て愛してくれてくれたから良い事、悪いことを知ることが出来ました。





1、1993年10月に創立されたスイスJEGは、以来22年の長きに渡って、主の祝福と導きのもとで、一度も欠かすことなくウスター市のクリショーナ教会の会堂とホールをお借りして礼拝を守ってきました。感謝！その悲喜こもごもの思い出が一杯詰まった会堂での最後の礼拝が8月

23日に持たれました。

また、その日、神様はスイスJEGで育った今村野恵美さん、高平優美香さんの若い2人の洗礼式という素晴らしいプレゼントを用意してくださったことも感謝でした。その最後の礼拝ならびに洗礼式の記録ビデオはこちらでご覧いただけます。www.youtube.com/watch?v=S2dYIUpBBE

マイヤー牧師は、2014年3月9日から始められた”使徒の働き”講解メッセージ・シリーズを、一年半後、ウスター最後のメッセージで締めくくられました。この日の説教”キリスト者の自由”においてパウロが囚人として、しかし、キリストにあっては自由人としてローマに移送されていく劇的なシーンから、現代への適用を学びました。この説教はスイスJEGのメッセージ専用サイトで日独両語でお聴き頂けます。http://jeg.meielisalp.ch/



ウスター最後の愛餐会 23.8Aug.2015

2、今年11月で創立22周年を迎えるスイス日本語福音キリスト教会は、9月13日(日)新会堂となったデューベンドルフ(チューリッヒ近郊)のシオンホールで、祝福のうちに歴史的な第一回目の礼拝を持つ幸いを得ました。



新会堂は、チューリッヒ市街により近いDübendorfにあるMitternachtsruf教会に属し、100名余り収容できる小会堂を併設(スイスJEGが使用)するほか、CSやユース、子供たちのための部屋などの設備が整っています。行き方については、スイスJEGのHPでご覧いただけます。

http://www.jegschweiz.com

この日から、スイスにおける邦人宣教の拠点となる新会堂で、マイヤー牧師は期待の”旧約聖書人物シリーズ”から人類の先祖であるアダムについて、”創造のクライマックス”をテーマに創世記1,26-31から、三つのポイントで解き明かしされました。この説教の録画は、スイスJEGのHPの礼拝メッセージサイトでご覧いただけます。



Mitternachtsruf教会のマルゴ・ヨナタン主事のご挨拶

3、7月29日から8月2日まで、チェコの首都プラハで開かれた**第32回ヨーロッパ・キリスト者の集い**には、イスラエルやアジア諸国、米国を含む20ヶ国から225名が参加し、おおいに祝福されました。



ヤン・フスが母国語で説教したプラハ旧市街ベツレヘム礼拝堂で記念写真

感謝！スイスJEGから15名が参加し、真理と真実をキーワードに”みことばの学び”と神の家族としての貴重な交わりのおきをもちました。今回の”集い”の写真、ビデオ、メッセージの録音等は、スイスJEGが管理するオフィシャルHPに特設サイトが設置され逐次アップロードされていますのでどうぞご利用ください。www.europetsudoi.net 来年は、いよいよスイスJEG主催の33回目の集いです。上からの知恵と力をいただいて、全員が心を合わせて準備作業をすすめていきたいと願っています。



作田兄姉、ヴィッテンベルグにて

4、パリ・プロテスタント日本語キリスト教会の誕生と成長に深く関わられ、30回連続参加されたヨーロッパ・キリスト者の集いの成長に寄与された作田銀也兄、安子姉が、41年半に及ぶフランスでの生活に終止符を打たれ、9月11日にパリを発

たれ本帰国されました。羽田空港では、ご家族や元パリ教会会員らが出迎えられ、曾山家(ご長女の家族)での生活をスタートされました。作田兄姉の全てを主に捧げる献身的な生き様は、どれほど欧州のキリスト者に勇気と励ましを与えてきたことでしょうか。心より感謝して、日本での新しい生活が主からの平安と祝福のうちに営まれますようお祈りします。なお、作田兄は残務整理のため帰仏され、暫くパリに滞在されます。作田兄姉からの挨拶状が6ページに掲載されていますのでお読みください。

5、スイス東部のサンクト・ガレン市でチャリティ・カルチャーイベント**第5回JAPANTAG**が開催され、広い会場が狭く感じられるほど多くの市民が訪れました。このJAPANTAGにはスイスJEGも第一回から積極的に寄与してきました。



大活躍スイスJEGユースチーム お好み焼き40枚を完売！

今年はJEGから14名(ユースから8名を含め)が参加し、よき証となりました。この日の収益は、東北の3つのボランティア団体(うち二つはクリスチャン団体)とネパールの子供たちに贈られます。JAPANTAGのスナック、ならびにショート・ビデオはhttp://japantagstgallen.jimdo.com/でご覧いただけます。

6、オーニングャー宣教師、クッツ・プリスキラ宣教師、ラシェンコ・ベラ宣教師、マルティン・フィリップ祐子宣教師からのRundbrief、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、ブリュッセル・ミサ便り、パリ・プロテスタント日本語キリスト教会パルタージュ、イザール通信、夜越山からの便り、ミッション”宣教の声”、ローゼンクランツNLが届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。



日出ずる国から

開かれた門を通り

大阪府は泉佐野福音教会の

高木攻一、輝ご夫妻から



見よ、わたしは、あなたの前に、だれも閉じる

ことのできない門を開いておいた。
黙示録3章8節

ウィーン宣教に幕を閉じる帰国を一年後に控えていた2014年の1月1日、約束のみ言葉として前掲の聖句を得、導きを求めて祈りつづけておりましたが、主は、関西の泉佐野福音教会に奉職する道をお開きくださいました。スイスの皆様の背後のお祈りに感謝しております。

書斎のデスクトップには、数年前の夏にユングフラウに登頂して撮った青空にそびえる壮大な雪山を配置し、スイスの夏の冷涼さを思い出しつつ、猛暑にあってもさわやかな涼を楽しんでおります。

ウィーン滞在が10年となり、帰国後のある種のカルチャーショックを心配しましたが、何とか関西の文化圏に軟着陸できたようです。

泉佐野福音教会は、市内旧市街に位置し、数キロ先に関空が大阪湾に控え、海と泉山脈に挟まれ、変化に富んだ環境に置かれています。教会は婦人牧師によって50年前に開拓され、現在の礼拝堂は献堂20年目ですが、三階建てで申し分ない立派な施設であり、これ



から信仰篤い教会員の皆様とビジョンを共有し、この町での教会の使命を果たして参りたいと願っております。

赴任した時点で、礼拝奏楽者が転出されたと知り、急遽、妻の輝が伴奏を求められることになり、今や夫婦でフーフウフル回転です。日本に関空経由で来られる方は是非お立ち寄りください。感謝の報告まで。

パリからの帰国と近況報告

東京は杉並・西荻チャペルの

高橋稔、みどりご夫妻から



2011年6月から三年半の間パリ・プロテスタント日本語キ

リスト教会の牧師として務めさせていただき、今年(2015年)1月7日にパリを発って日本に帰国いたしました。

1月7日というのは、ちょうどパリでテロ事件が起こった当日でした。事件発生後の2~30分前に事件現場から数百メートルの牧師館を出て、作田耕平兄の車で空港まで送ってもらいました。テロ事件のことは、翌日、羽田空港に着いて、出迎えてくださった山越茂樹・淳子夫妻からその話を聞くまで、全く知りませんでした。

帰国後は家内の実家のある北九州市で四か月の間、健康診断や休養、そして親族や教会の皆さんとのお交わりなどでゆっくりとした恵まれた時を過ごさせていただきました。お陰様で家内の体調も戻り、四月頃、これならまた教会でのご奉仕に復帰させていただくことが出来るようになるようになりました。

そのころ、以前長い間所属していた福音伝道教団で、東京・杉並区の西荻窪にある「西荻チャペル」の牧師が必要という知らせをいただき、必要な手続きを済ませて6月1日から牧師として就任させていただきました。私たちはここで2017年の3月までの二年間だけ奉仕をさせていただきます、その後は若い牧師を迎えたいと願っています。

実は、この教会は私たちが38年前に開拓メンバーとして遣わされ、アメリカ

人、カナダ人の語学宣教師たちの協力で英語学校から開拓伝道を始めて出発した教会でした。



その後、正式に教会となり私も担当牧師として務めていました。私たちはここに13年間おりました。

その後、パリの日本語教会に迎えていただくまでの15年間はJECA(日本福音キリスト教会連合)の松本聖書福音教会(長野県)で牧師をしていました。そこは日本・北アルプスのほとんど全景が眼前に見渡せる素晴らしい場所に建てられた教会でした。

松本は標高600mを超える高原で、冬は氷点下10度以下になります。しかし湿度が低く快適な所で、夏も汗をかいたことがありません。私自身は北アルプスの景色を見ながら、四年間学んだスイス・ベアテンベルグ聖書神学校をいつも思い出していました。

今年のヨーロッパは暑い夏を迎えているとの皆さんからの便りを聞きながら、それ以上に暑いだろうと感じている東京の夏を25年ぶりに体験しています。そして今は、パリ教会を始めヨーロッパ各地にある教会とその主にある兄弟姉妹のことを常に祈りに覚えながらも、昔、自分たちが開拓した懐かしい東京の教会でイエス・キリストの福音を伝えられる幸せを満喫しているところです。

奥多摩に遣わされて

東京都は奥多摩福音教会の

田辺正隆、みやご夫妻から



22年間ヨーロッパ邦人伝道を終え、主が奥多摩に遣わして

くださってから、早や5か月が経ちました。ここは本当に鄙(ひな)びた所です。しかし、豊かな自然に囲まれた素晴らしい山間の町です。朝、鶯の鳴き声で目を覚まし、窓を開けると奥多摩溪谷の川の流れ

の音が心を和ませます。PCに向かって
いる今は、焼けつくような蝉の大合唱と
小鳥のさえずりが聞こえています。

すでに、この5か月の間にヨーロッパ
関係の方々がお子さんも含めて30名近
く拙宅を訪れてくださいました。本当に
嬉しいことです。励まされます。一時帰
国のおりには、ぜひ、お出かけくださ
い。隣接する「福音の家」は修養会
場で、100名は泊まれますから・・・



奥多摩福音の家

奥多摩福音
キリスト教会は「福音の家」の一室を借
りて礼拝していますが、キャンパーが数
名礼拝に加わりますと、小さい礼拝堂に
は入りきれないほどになります。今まで
無牧の間も懸命に教会を守り続け、宣教
に励んでこられた兄弟姉妹と諸先生方、
宣教師方の祈りと献身の賜物です。

私は、専ら、祈りとみことばの奉仕に
当たっています。若いころ、生涯ドイツ
の片田舎で伝道し続けた牧師の説教集を
読んだことがあります。「上よりの光」
(Strahlen von oben) という題の本で
す。実に暖かい、みことばに忠実なメッ
セージの数々でした。そんな働きをしま
ながら、人生の最晩年をこの地で主に感謝
しながら主に仕えていきたいと思いま
す。

また、御心なら、リーベンツェル近く
の田舎の教会（ブルムハルト牧師）から
リヴァイバルが起きたように、この奥多
摩からリヴァイバルの火が燃え上がった
ら・・・と夢を見ています。

懐かしいヨーロッパの邦人諸教会の上
に主の溢れる祝福が注がれるようにお祈
りします。小さい者たちのためにもお祈
りください。

「主に導かれて」 田辺みや子

日本に戻
り、五ヶ月も
経ってしま
いました。い
よいよ、主の
お導きの確
さを思わせら



住まいの裏を流れる多摩川

れています。私の八十年の生涯の全
ては、主の御手の中にあり、ご計画の中
にあったことを確信させられています(詩
篇139:15,16)。

「見よ。その日が来る。一神である主の
御告げー その日、わたしは、この地にき
きんを送る。パンのききんではない。水
に渴くのではない。 実に、主のことばを
聞くことのききんである。」ーアモス
8:11ー

どんなにみことばを読んでも、その読
んだみことばに聞くことがないとした
ら・・・マタイ7:24からの主のおことば
が思いだされます。ヨーロッパでも日本
でも同じです。みことばを宣べ伝えな
さい。時が良くても悪くてもしっかりや
りなさい。寛容を尽くし、絶えず教えな
がら、責め、戒め、また勧めなさい。」ー
IIテモテ4:2ー

日々、主と共に歩み、語られる主のみ
ことばを誤りなくお伝えして行きたいも
のです。♪ キリスト・イエスはいつも 私
に囁き 私に聴き この世の雨に風に 私を
助けてくださる生ける主です！ ♪ 祈り
つつ。

欧州に繋がる一信仰者

東京都は世田谷区・深沢教会は

斎藤篤、朗子ご夫妻から



3月末に
日本へ帰国
して以来、
あつという
間に半年を
迎えています。
先日、
「ヨーロッパ・キリスト者の集い」へ参加し
た時は、自分がすでに「帰国者」であった
ことを忘れ、いまだ欧州の人間であるか
のような錯覚をしてしまうほどでした。私
たちにとっての「たった」3年間で、非常
に密度の濃い、そして主にある信仰者の
素晴らしい交わりが与えられたのだな
と、大変感謝しているところです。

私たちが4月から赴任した、日本キ
リスト教団深沢教会は、東京都世田谷区、
駒沢オリンピック公園のすぐ近くにあり
ます。都心でありながらも、喧騒から離
れた場所に深沢教会は存在します。そん
な落ち着いた環境とは裏腹に、教会は大
変活気のある、とても元気な方々によ
って支えられています。1年間の無牧
期間を経て、私たち夫婦が遣わされま
した。来年で創立60年を迎える教会
ですが、昨年、3回目の新会堂が主に
ささげられました。

日曜の礼拝は、朝と午前、そして夜
の1日3回行われます。ケルン時代は、
午前中をゆっくりと過ごしたのち、午
後の日本語

礼拝に向かっていた私たちですから、
日曜日のライフサイクルは180度変わ
ったと言っても、言い過ぎではありません。
その3回の礼拝に、毎回約80名近い
方々が集い、主を賛美し、祈り、御言
葉が与えられるひと時を共に過ごして
います。

私がこの教会から受けた印象は、
「とにかく細かいことにこだわらず、
聖霊様の導きによって



解放された教会の喜びが営まれている
ということです。世田谷という場所柄、
海外生活を経験された方が教会に来る
ことも多く、「ああ、ここは帰国者にも
優しい教会だな」ということを、心か
ら感じることができています。そのよ
うな雰囲気の中に、日本語教会で牧
師を経験した私が仕えることができる
のは、本当に大きな喜びです。教会
の皆さんもまた、海外生活をされた
クリスチャンの方が、のびのびと信
仰生活を送れるような教会になりたい
という願いをもっておられることも、
私にとっては大きな励みとなっています。

私自身、帰国後は引き続き、前任地
であるケルン・ボン日本語キリスト教
会と、ブリュッセル日本語プロテスタ
ント教会の無牧期間に、多少なりとも
関わらせていただく喜びを経験して
います。ケルンにおいては、月1回、
メッセージを日本で録画して、プロ
ジェクターで放映させてもらうこと
によって、礼拝協力の一端に与って
います。無事に後任牧師も決まり、
来年4月からは佐々木良子牧師(日本
キリスト教団小松川教会)が着任され
ます。佐々木先生の赴任が祝福の
うちになされますように、祈るばかり
です。

また、ブリュッセル日本語教会につ
いても、牧師代務者としての働きが
与えられています。後任牧師が既に
決定していますが、実は去る7月に
私と共に交通事故に遭い、後任の先
生は重傷を負われて、いまだ入院中
の身です。無事に怪我が癒されて、
ブリュッセルで存分に宣教の働きが
できますよう、皆さんのお祈りを是
是非お願いしたい次第です。ブリ
ュッセル教会も、集められたメンバ
ーは大変少なくなりましたが、それ
でも主にある希望を胸にして、教
会の営みが続けられていることは
感謝です。

これからも、欧州につながる一
信仰者として、また、日本と欧州の
橋渡しができるような働きに仕
える者として、皆さんとの交わり
が与えられることを、心から楽
しみにしたいと思います。主の喜
びが全地に満ちるために。インマ
ヌエル・アーメン！



ヨーロッパの
日本語教会から

救いの方舟となりますように
ウィーン日本語キリスト教会は
後藤献一・香織ご夫妻から



ウィーン
より平和の
ご挨拶を申
し上げま
す。

この度、

私たちは2015年6月28日、ウィーン日本語キリスト教会に赴任致しました。それまで、オーストリアとは何も関係なく生きてきたのですが、このように神様に導かれて、この国に来て、日本語教会に仕える貴重な機会を心から感謝しております。

振り返ると伏線は幾つかありました。

①私たちは、二人とも献身をしており、私は高校2年生の時、妻は中学2年生の時に、神様にこの人生をお献げします、主のためにお用いくださいと、祈っておりました。神様がその祈りに答え、結婚して最初に遣わして下さった場所が、このウィーンとなりました。

②また私は、ニュージーランドに語学留学時代、午前は現地の教会へ、午後にはオークランド日本人キリスト教会に通い、大変親しい交わりと楽しい時が与えられ、その教会がなかったら、留学生活はまた違ったものとなっていました。



ウィーンの群れと

オークランドで一番大きく元気な日本人の群れはこの教会で、多くの日本人が集まり、魂が救われ、癒され、情報交換の場となっております。その後、各国の日本語教会に行く機会があったのですが、現地邦人教会のその貴重さを体験し

ていたので、今の教会に赴任する思いとなりました。

③妻の最初の海外旅行は、音楽高校の時の修学旅行でウィーンでした。その後、大学で声楽を専攻し、神学校では教会音楽コースを卒業しました。音楽に関係していることは、音楽の都に来る多くの音楽家たちを理解する上で役に立てば嬉しく思っています。

ウィーン日本語教会が、このオーストリアにいる2000人以上の日本人たち、また日本語を使う人たちにとって、魂のオアシスとなり、救いの箱舟になることを願っています。御教会との親しい交わりを楽しみにしています。何か一緒にしたいですね！ウィーン教会に、いつでも遊びに来てください。

ドイツでの生活、まずは、
フランクフルト日本語福音キリスト教会は
矢吹博・育代ご夫妻から



アイスレーベン（ルターの生地）にて
「私たち一同も、なくてはならないものために、正しい仕事に励むように教えられなければなりません。それは、実を結ばない者にならないためです。」テトスへの手紙3章14節

ドイツでの生活を始めてから3か月が経とうとしています。こちらの生活で乗り越えるべきは、ことばのことと、社会の仕組み（システム）を知ることだと、いろいろな機会に教えられています。どうしても英語で話してしまうのですが、やはり買い物やいろいろな機会にはドイツ語で、と思いますね。

住まいは、フランクフルトの中心部から地下鉄7号線で15分ほどの終点、「ハウゼン」という駅から歩いて1分ほどの所です。この地区には日本人学校、日本人補習校（土曜日の）、日本人幼稚園があり、多くの日本人が住んでいます。時折日本語で子どもの声が聞こえてくるほどです。神さまが私たちをここに置いて下さったことを感謝しています。また、この地区には教会の役員さんをはじめ4人の教会メンバーがいて、とても心強いです。



8月30日、スイスJEG・マイヤー牧師司式による就任式

私たちは、着いたその日から何の不自由もなく生活を始めることができました。役員をはじめ教会の皆さんが、冷蔵庫や洗濯機や机、食器などを前任の田辺先生宅から運び、テーブルやベッドから細々（こまごま）したのもまでも整えて下さったからです。感謝に堪えません。

すでに牧師館では青年との聖書の学びが続けられ、9月19日には「男性食事会」を予定しています。何か一品を自分が作って持ち寄って食べるという会です。さて、どんな料理が…と楽しみです。

何にも代え難い宝物

パリ・プロテスタント日本語キリスト教会は
作田銀也・安子ご夫妻から



2006年、スイスでのキリスト者の集いにおける賛美

私たちは、41年半に及ぶフランスでの生活を終え、9月11日、日本に帰国することになりました。

パリ日本語教会とヨーロッパ・キリスト者の集いが無かったら、こんなに長くフランスに留まることもなかったでしょう。（派遣されたときの契約書には5年と書かれていました。）

フランス、また欧州の主たる兄弟姉妹との出会い、素晴らしい交わりは私たち夫婦に取りまして何物にも代え難い宝物です。写真などを眺めながら、想い出、想い出...の中に浸っていると引越しの準備がなかなかはかどりません。

皆様お一人、おひとりの上にもいつも主の御祝福が豊かにありますよう、お祈りいたします。主に在って、感謝とともに、ごさげんよう！

日本での滞在先：
242-0018 神奈川
神奈川県大和市深見西
4-8-28
ネクストヤマト
104 曾山様方

